

日本とコリア—互いにもつとも近く、昔から強い縁（えにし）に結ばれてきた両民衆の親善と友好を深めることをめざして活動しています。

そのために、理解の妨げとなるものごとをなくすことを大切にしています。



2022年4月10日/64-2号

発行/日本コリア協会・大阪 大阪市北区錦町2-2 国労大阪会館内

韓国大統領選

二大政党では既得権益からの脱却は困難か

全労連等とも交流する韓国ナショナルセンター民主労総は、大統領選挙結果（3月9日投票、保守「国民の力」のユン候補が当選。イ候補と0.73ポイントの僅差）を受けて談話を出している。少し引用しよう。

「極端な二大政党政治に對抗し、革新陣営の復活と活路を求めて奮闘した革新系三党（正義党、労働党、進歩党）に感謝と激励の意を表す。二大政党の激しい対立という客観的な難局に直面していたにもかかわらず、革新陣営が希望を提示

できずに終わった点について革新陣営および民主労総にも自省が必要である」「革新陣営は『多様性を尊重しつつも統合を目指し、団結を図らずしては労働者民衆に愛されない』という点を明確に胸に刻み、尹錫悦時代を生き抜いていくためにも、間近に迫った地方選挙・総選挙を準備するためにも、労働者民衆の未来のためにも、民主労総は革新陣営の団結と活路のために努力するつもりである」と

90年代から何度となく

革新政党と市民の共同は模索されてきたが、成功していない厳しい現実が見える。

一方、革新政党・正義党から大統領選に出たシム候補は、一貫して共に民主党と国民の力の両党政治を「既得権カルテル」と批判。権力のやり取りを通じ両党に権益が集中し、結果、女性や下請け労働者といった弱者の課題が後回しにされてきたと指摘する。シム候補はこの部分に関し、「深まり続ける不平等と、ますます強固になる既得権という現実の前で、社会的弱者のくらしを守るための正義党の役割は、より切実になっている」と訴え続けた。

にっこりおおさかファイルドワーク

尹大統領で韓国はどう変わるのか

そして日韓関係は...

韓国大統領選挙で保守系の尹錫悦氏が次期大統領に選出された。日韓関係は改善に向かうのか。韓国大統領選挙についての報告。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻によって国際情勢が激動するなか、北朝鮮は...北東アジア、コリア半島の情勢についても報告。

日時 4月22日（金）6時30分～8時

報告 飯田光徳さん（協会理事長）

会場 国労大阪会館・第1小会議室

参加協力費500円（会員・学生無料）

若い世代へ

ジェンダーのくさび

今回の選挙ではジェンダーによる分断が保守の選挙手法として持ち込まれた。「女性家族部(省)廃止」「構造的な性差別はない」というユン候補の発言は多くの韓国女性の怒りをかい、最終盤の彼女たちの集団反発を招いた。

次善の策でイ候補に票を投じた女性達の「本音」は、実質的な辞退を表明したシ

ム候補に送られた寄付金で確認できる。出口調査が発表された9日夜7時30分から翌日未明までにシム候補に振り込まれた寄付金は12億ウォン（約1億1300万円）に達したという。

大統領選挙出口調査の結果を見ると、20代以下の女性投票者に占める、イ候補への投票割合は58%、選挙直前の世論調査のイ候補支持の2倍にのぼる票を実際に集めたことになる。

震源のユン氏は、当選のあいさつ後「私はジェンダーや性別で分断したことはない。誤解しないで」と。開いた口が塞がらない。

また日本の良心的な人々にも、保守政権に交代したが、日韓関係は改善するのではとの変な期待がある。ユン氏の政策は力の外交、大軍拡、米国べつたり、そして「未来志向」という名の植民地支配をないものにする日韓関係...。まともな改善は見込めるわけがない。

今回の大統領選で日韓の市民社会が抱える政治課題の共通性が浮かび上がった。市民社会がどう頑張るか、知恵の見せ所ではないのか。